

**山崎** ハード面に関しては、南平体育館ではスロープがなく2階に上がれないことはありました。そういう点で、ふれあいホールのように新しいものはハード面がきれいになっていて、整備しているというお話はよく分かります。

ソフト面の心のバリアフリーということに関しては、特に車いすであることで何か嫌なことがあったかと言えば、本当はないのです。例えばスロープに行ったとき、だいたい周りの方たちはお手伝いしてくださいます。「ドアを開けておきましょうか」というのも一つです。そうですね。そういった部分で、配慮していただくことが本当に今は増えているし、



▲NTT都市開発(株)ダイバーシティ推進室所属。国内外の試合の合間をぬって入社。社内向けに、一生懸命戦っている姿をレポート

今後もっと増えていけばいいなと思います。

**市長** 平成28年4月に障害者差別解消法が施行され、日野市は、それを受けて「日野市障害者差別解消基本方針」を策定しました。その中に市の責務や事業者の責務などをうたい、法の目的を推進しようとしています。それに併せて日野市職員の方針にこれから2年間をかけて条例化に向けた作業を現在進めているところ

です。ただ、全ての人の意識を変えていくのは大変です。そこを何とかしていきたいと思っています。

また、条例化では、行政の対応はもろんなのですが、民間レベルで、例えば、山崎さんが車いすでお店に入ろうとして入店を断られるとか、そういうことが起きた場合、市が間に入って解決するというような仕組みを作るのが一番のポイントかと考えています。今後条例を作る場合、障害者の皆さまを交えて素案を作っていきますので、ご意見をいただければと思います。



### やりがい、生きがい、使命感を持って働く

**市長** 昨年から、新しい職場になったということですが。

**山崎** 昨年10月から、NTT都市開

発(株)に勤務しています。試合などで遠征も多いのですが、原則週2日会社で勤務しています。社内に向け、大会のレポートや活動報告などを行い、会社の活性化を推進する役割を担っています。

そのほかには小学校などに赴き、子供たちにパラリンピック競技を披露し、間近に見てもらったりしています。

**市長** 働くというのは、収入を得るという目的もありますが、やりがいのあることをやっていくのが一番大切だと思っています。

今、日本人の長い労働時間や生産性の低さということが問題になっています。仕事の質を上げるには、ただ時間を短くするだけではなく、やりがいとかモチベーションが大切だと思います。



### みんなが笑って生活できる世の中に

**市長** 山崎さんは、現在2人のお子さんのお母さんですが、日々の生活にお過ごしですか。

**山崎** 天秤にかけるのは難しいですが、子供が一番、アスリートが二番です。でも、アスリートとして活動



▲忙しい日々だけど、子供たちと一緒に時間は大切に。自分の頑張っている姿を子供たちに見せたい

でメダルを取り、しっかりと成績を残していくというのが目標です。

**市長** オリンピック・パラリンピックの選考は、どのように決まるのですか。

**山崎** パラバドミントンは、ポイント制です。それぞれ大会ごとにポイントが定められていて、アジア大会など年1回の地域大会は通常の世界各国で行われている大会に比べて1.5倍、世界選手権は2倍のポイントになります。年に1回ある大きな大会で優勝などをすると点数が多く獲得でき、世界ランクが上がりやすくなります。選考の際には世界ランクの何位以内というのが基準としてうたわれると思うので、大きな試合で勝つことが大切になってきます。

**市長** では、ポイントを取らなければいけないですね。

**山崎** 私は、10月のアメリカ大会で

している間は、どうしても子供と接する時間が短くなってしまいます。遠征に行くとい週間から10日ほど家を空けてしまうので、子供と一緒に居られる時間は、一つ一つ大切にしています。手作りのご飯でないといけないとか、家がピカピカでなければいけないという事は思っています。外食しても笑って一緒にご飯を食べることができればいいし、子供と公園に行ったり、子供たちと笑って一緒に時間を増やして楽しい思い出を増やそうと思っています。

**市長** パートナーのサポートなどはありますか。

**山崎** 夫には子供たちのお風呂や寝かしつけをやってもらっています。私はご飯を食べさせるところまで、そこから先は夫がしてくれます。そ

優勝したことで、世界ランキングで3位になっています。その後の大会のポイントによってはさらに変えられる予定です。日本女子は、世界ランキングがだんだん上がってきて、トップ10に現在2人が入っています。

**市長** 昨年世界ランキング1位の選手を破っていますね。

**山崎** 中国は選手層が厚く、ものすごく強い選手がいます。日本の選手がそれにどう戦っていけるかになります。

**市長** シャトルはどのぐらいの速さなのですか。

**山崎** 私たちは時速200キロ弱です。男子は健常の方だと500キロぐらいの記録があります。

**市長** 車いすの操作をしながらですよ。

＜6ページにつづく＞



ういった部分では、ずいぶん助けられています。

**市長** 今は、共働きの人も増えていきます。子育てに関する環境をどう整えていくかというのも、自治体の課題ですね。保育園の入園に関する問題など、さまざまな面で環境が不十分という方もいらっしゃるでしょう。そういうところは、真摯に受け止めていきたいと思っています。

山崎さん、将来に向けて、どんな社会になって欲しいと感じていますか。

**山崎** まず、一番は、みんなが笑っ

**山崎** パラバドミントンは、すでに東京2020パラリンピックの正式種目になっていますが、昨年9月にその中の実施種目が決まり、私が出場できる種目はシングルスと女子ダブルスが決まりました。全部で14種目90人が出場する見込みですが、まだ、各種目の出場人数は決まっています。たぶん、女子シングルの選出は5〜6人です。出場する権利を得るために、まずその5〜6人に入ることを第一目標にしています。もし、複数種目の出場が可能なら、ダブルスも視野に入れていきたいと思っています。

その前段階で、世界選手権やアジアパラリンピックがあるので、そこ

